

艦載機 J-15 はどこにいるのか？

漢和防務評論 20180106(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国空母”遼寧”及び進水式を終わって艤装中の 002 型大連空母に搭載すると思われる J-15 の生産状況が見えてきません。
昨日の漢和の紹介記事では J-15 は放棄されたような記事内容でした。
空母が先に出来て、艦載機は後から、というのは空母に合わせた戦闘機ということになり、空母も含め、展示宣伝用にしか使えないのではないでしょう



瀋陽航空機会社

KDR 香港特電：

衛星及び地上からの観察の結果、2017年になっても、瀋陽航空機会社では J-15 戦闘機のバッチ生産開始の動きは見られなかった。2016 年末には、J-16 の生産がピークに達した。2017 年の全期間、2、3、4、5、6、7、8、9、10 月の観察では、3 月に 12 機の J-11B 或いは J-16、5 月に 6 機、6 月に 1 機、それぞれ出現した。J-15 は、2017 年には明らかにバッチ生産に移行していない。しかし空母の建造は相当迅速に進行している。引き続き観察すべきことは 2018 年の J-15 の生産状況である。J-15 を早く生産しないと、次の空母（002 型大連空母）のパイロットの訓練はどうなるのか？興城の海軍航空基地の建設規模から見ると、基地自体は J-15 が 24 機入る規模だが、このような生産速度では、やはり”遼寧”は単に訓練用空母であり、完全充足（24 機）する必要がない、ということ

か？

しかも、すでに出現した J-11D もバッチ生産に入っていない。現在、大量生産に入っているのは依然として J-16 であり、SU-30MKK の後継機である。これは多用途戦闘機である。J-11D や J-15 については、航空機技術や生産能力の他に、コストの問題が含まれているかもしれない。相当高価なはずだ。J-15 の多くの部品は、手作りのようだ。中国のテレビは関連ニュースを放映したことがある。大量生産は如何に実現できるのか？

以上